

適正な水道料金について（２）

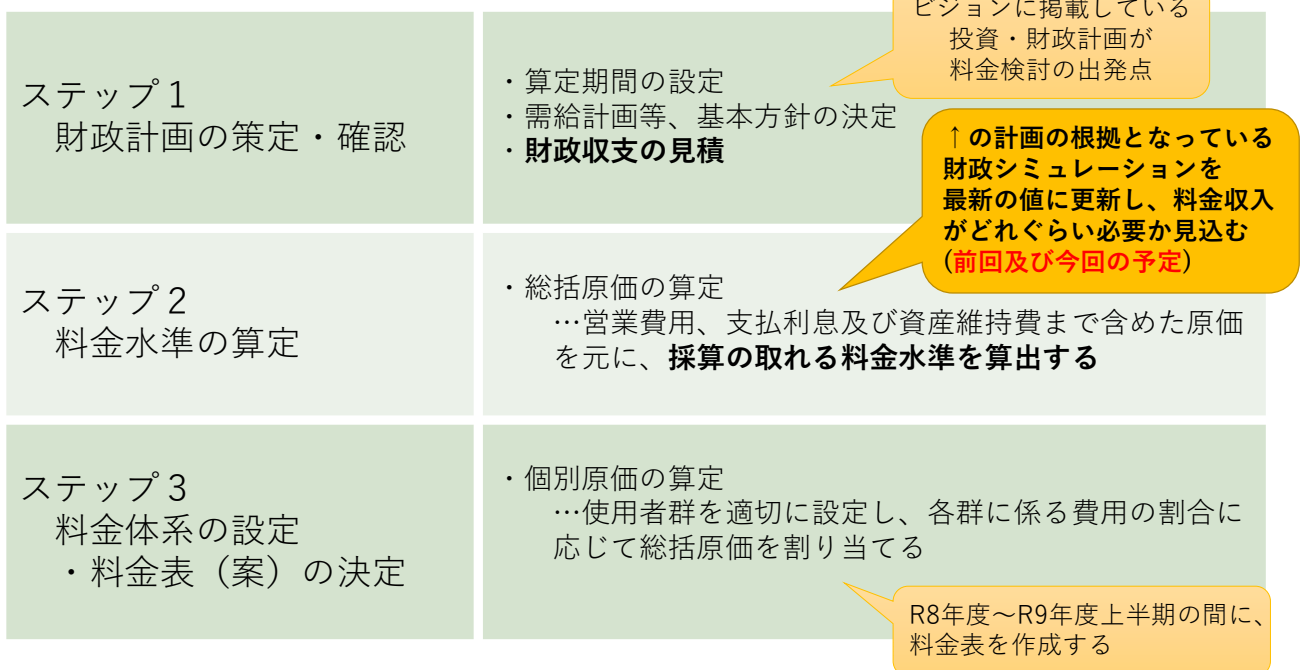
目次

初めに	料金検討の流れについて・スケジュール	…… 1
1	見直し項目【年次更新】更新結果（１）成り行き	…… 3
2	見直し項目【年次更新】更新結果（２）料金改定 9 % (ビジョンと同率)	…… 4
3	見直し項目【年次更新】更新結果（３）料金改定13% (収支均衡)	…… 5
4	見直し項目【要精査】	…… 6
5	その他の見直し条件（例）	…… 7

2026年8月28日

加東市上下水道部管理課

初めに 料金検討の流れ

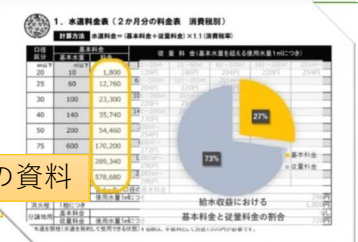


(参考) 料金検討における論点／加東市の場合

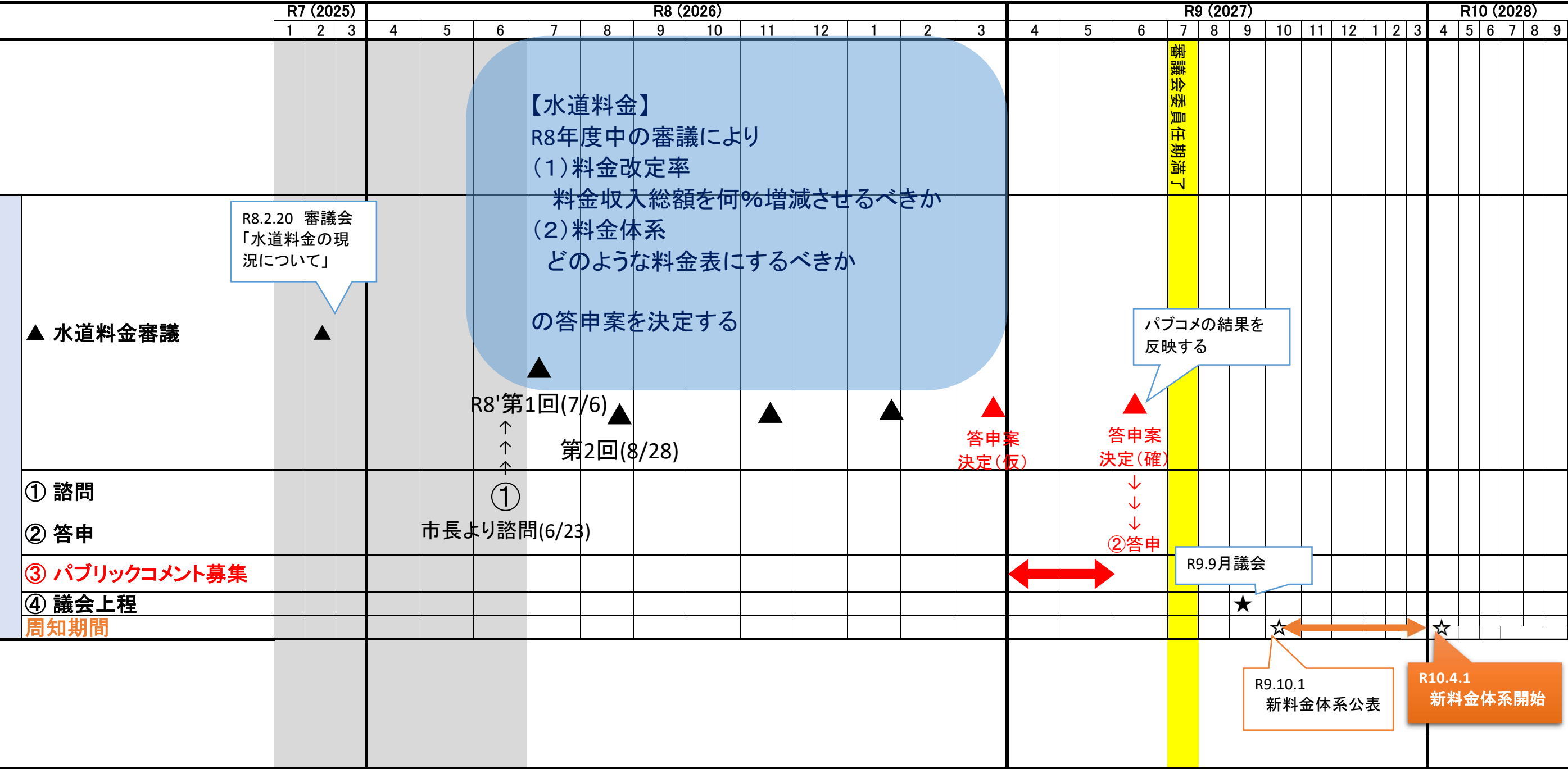
- ① 法的な視点
 - 特定の使用者や使用者層、世代に負担が偏らないこと（負担の公平性）
 - 使用者の負担能力・価値基準に基づき、生活用水として日常使用するのに妥当な料金であること（妥当性）
- ② 経営的な視点
 - 将来の資産維持費まで算入した適正な原価に基づき、独立採算制を守ることができる（＝「元の取れる」）料金設定であること
- ③ その他（社会情勢の変化に対応するために）
 - 小口利用者・単身者世帯の増加
 - 人口減少による需要減への対応

加東市の水道料金体系は、口径ごとに基本料金・基本水量を定め、基本水量を上回る使用水量については従量料金を定めている。従量料金部分は逓増制を採用し、水道水を多く利用する利用者に対してより重い負担を課している。

参照・R8.2月審議会の資料



水道料金改定に関するスケジュール



1 見直し項目【年次更新】 概要1/2

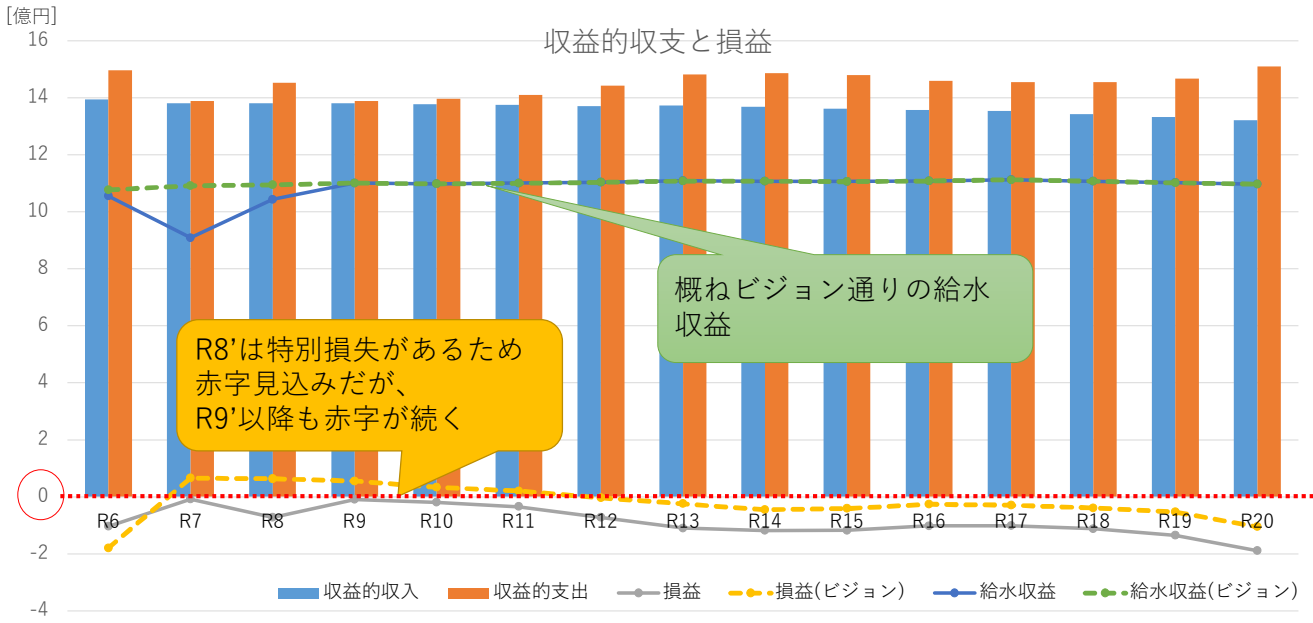
■ 収益的収支（毎年の維持管理費など）

項目	R6ビジョン検討時	今回見直し
給水収益	R5年度供給単価×有収水量 水量は人口ビジョンから見込む	R6年度供給単価×有収水量
預金利息	R5年度実績値で一定	過去5年実績平均値で一定
有価証券利息	見込まない	確定額のみ計上
他会計負担金	R5年度実績値で一定	R7年度実績値で一定
人件費等	R6年度予算値 ×賃金上昇率（0.92%）	R8年度予算値 ×賃金上昇率（1.74%）
その他経費	過去5年実績平均値×物価上昇率 （1.32%）	過去5年実績平均値×物価上昇率（2.38%）
動力費	R6年度予算単価×配水量 ×物価上昇率（1.32%）	R8年度予算単価×配水量 ×物価上昇率（2.38%）
支払利息	新規借り入れ分の償還利率 1.8%	新規借り入れ分の償還利率 3.2%

R7'供給単価は物価高騰減免の影響を受けており、使えない

預金は今後減少見込みのため、利率が上がっても増額が見込めない

1 見直し項目【年次更新】 更新結果 （1）成り行き

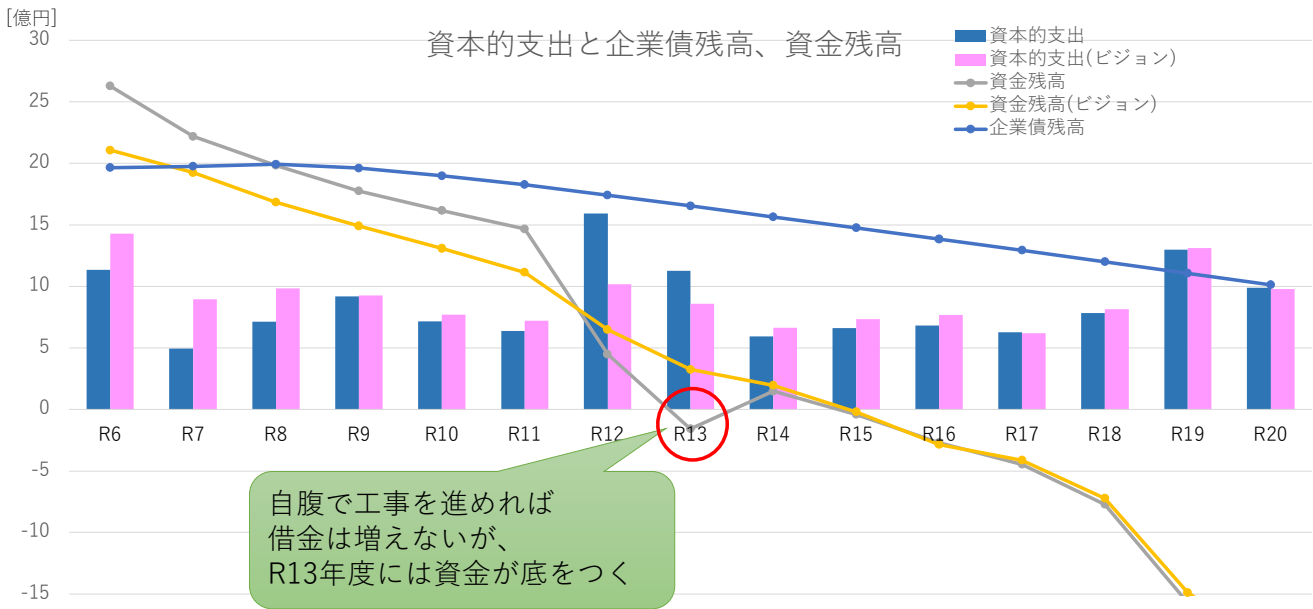


1 見直し項目【年次更新】 概要2/2

■ 資本的収支（工事費、借金及び返済など）

項目	R6ビジョン検討時	今回見直し
企業債借入	借入なしの場合と、資金残高を給水収益1年分確保した場合の2パターンを検討	（左に同じ）
建設改良費	更新計画を反映	更新計画の実績に伴い、金額・算入年度を変更
その他		R14に満期を迎える有価証券4億5千万円を固定資産売却益に仮計上

1 見直し項目【年次更新】 更新結果 （1）成り行き



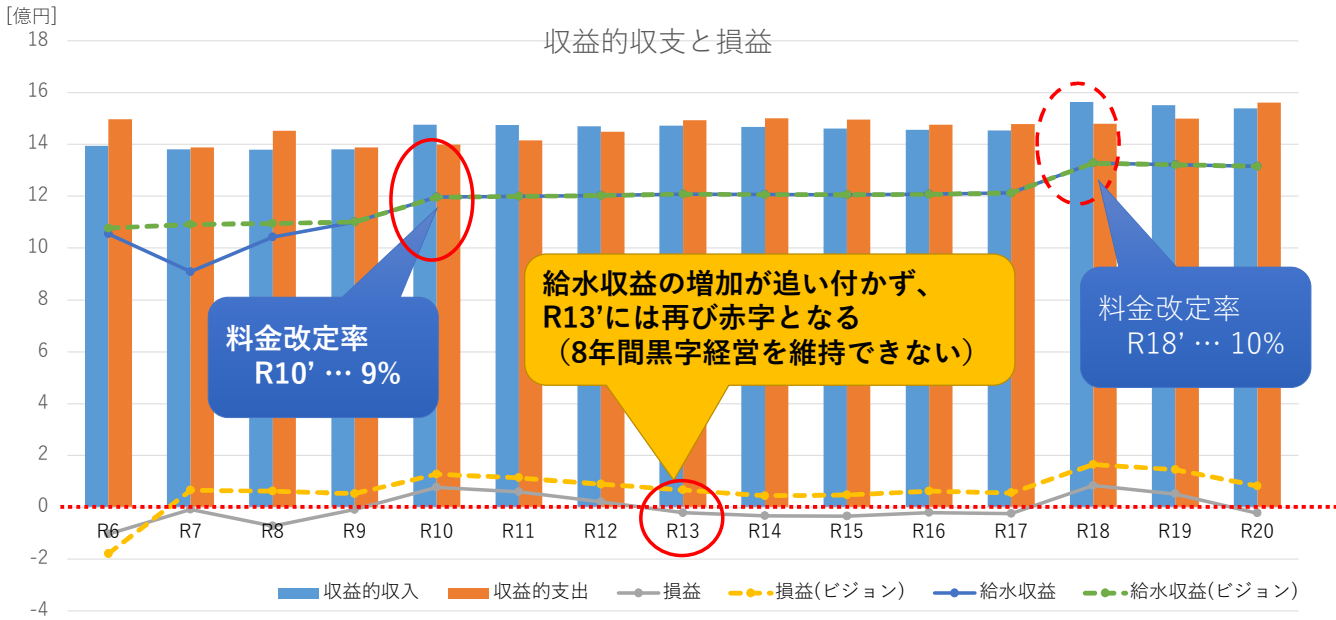
2 見直し項目【年次更新】 (2) 料金改定 9 %

■ 資金確保の手段

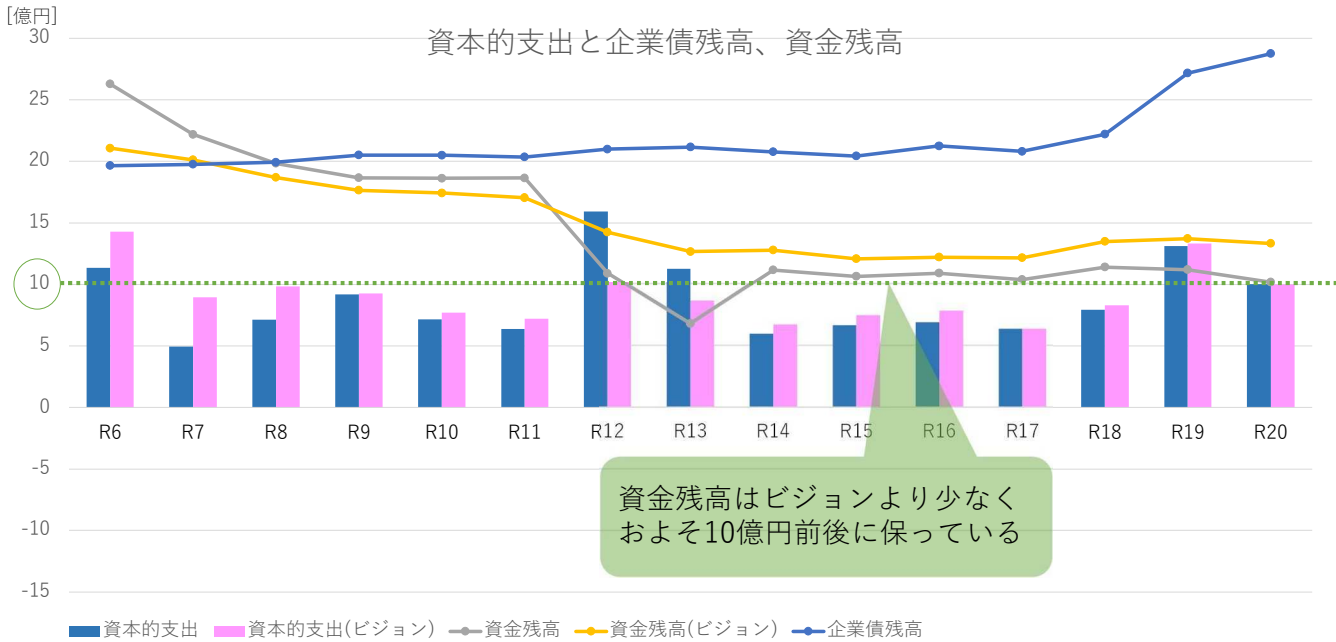
	R6ビジョン検討時条件	計画反映値
料金改定	・ 初回改定年度をR10年度とする ・ 改定年度から8年間は純損益がマイナスにならないよう に、改定年度の料金改定率を設定する（増減単位 1 %）	R10'…9%改定 R18'…10%改定
企業債発行	資金残高が概ね給水収益1年分を下回らないよう、当該年度の建設改良費に対する借入額の割合を設定する（増減単位 5 %）	8年間（R10～17）の 新規借り入れ額 …約7億1千万円

本ケースでは右の計画反映値を優先するので、必ずしも上記の条件通りになっている訳ではない

2 見直し項目【年次更新】 更新結果 (2) 料金改定 9 %



2 見直し項目【年次更新】 更新結果 (2) 料金改定 9 %



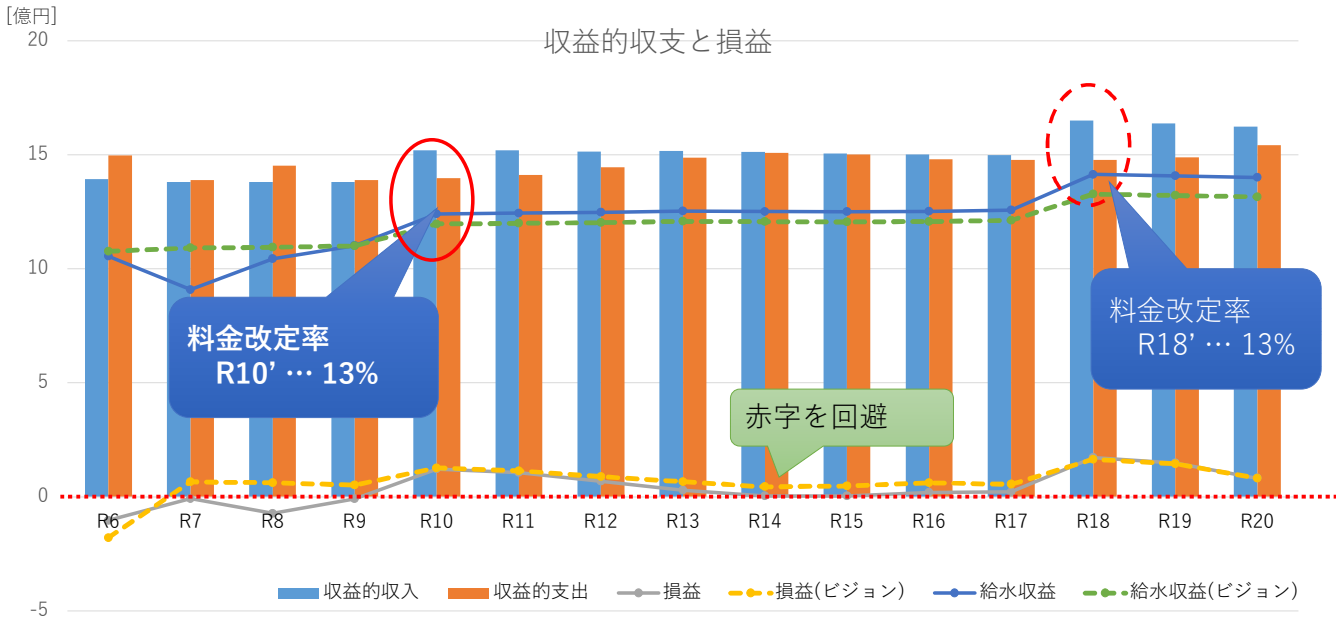
3 見直し項目【年次更新】 (3) 料金改定により収支均衡

■ 資金確保の手段

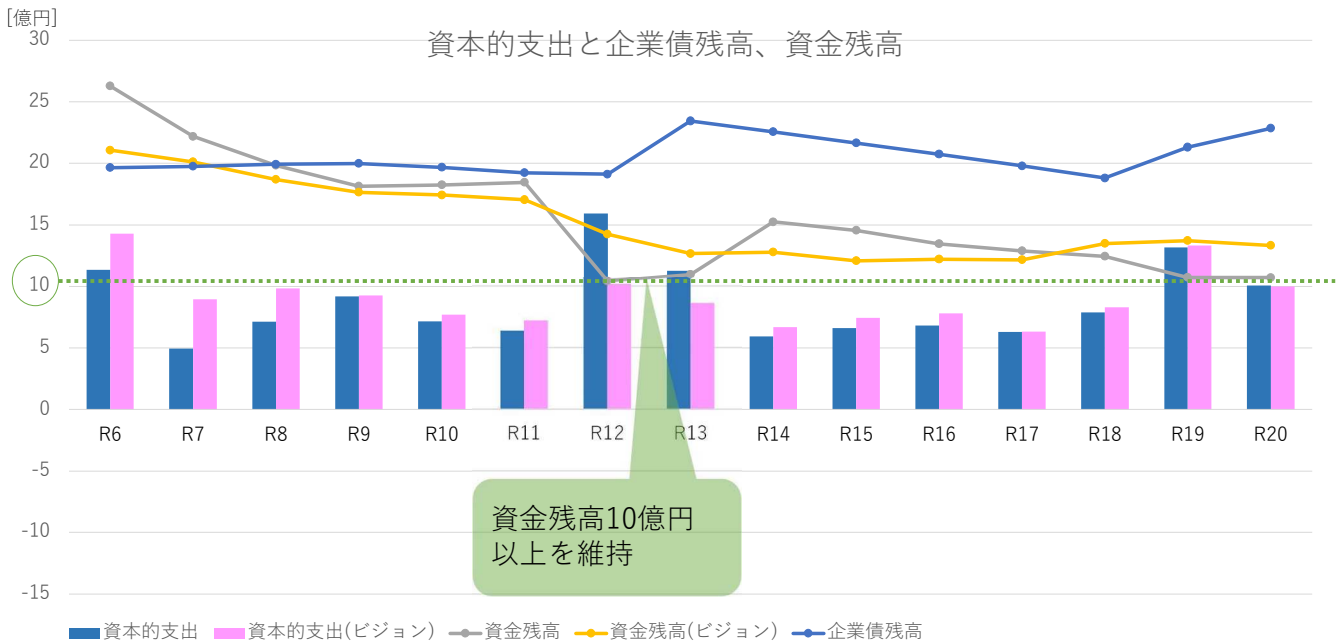
	条件	←条件反映値
料金改定	・ 初回改定年度をR10年度とする ・ 改定年度から8年間は純損益がマイナスにならないよう に、改定年度の料金改定率を設定する（増減単位1％）	R10'…13%改定 R18'…13%改定
企業債発行	資金残高が概ね10億円を下回らないよう、当該年度の建設 改良費に対する借入額の割合を設定する（増減単位5％）	8年間（R10～17）の 新規借り入れ額 …約6億5千万円

R7年度までの給水収益（料金収入1年分）より少し低く設定
（資金残高の保持する額が低すぎると、一度に多額の支払いが重
なった時や、災害等で現金収入が一時的に途絶えたときなどに対
応できない恐れがある）

3 見直し項目【年次更新】 更新結果 (3) 料金改定により収支均衡



3 見直し項目【年次更新】 更新結果 (3) 料金改定により収支均衡



4 見直し項目【要精査】概要 前回審議会での提示案など

項目	見直し（年次更新）内容	見直し（精査）案
給水収益	R6年度供給単価×有収水量	（左に同じ）
有収水量	・一人一日給水量見込みについて、徐々に増加を見込む（上限240L/人・日） ・大口利用者一日使用水量R3年度以降は同値で推移 （業務・営業用…2,453m3、工場用…2,817m3）	・一人一日給水量を、R7年度以降は同値で推移とする（214L/人・日） ・大口利用者一日使用水量をR5～7の3か年平均値の同値推移とする （業務・営業用…2,492m3、工場用…2,741m3） 
物価上昇率 賃金改定率	物価上昇率…2.38% 賃金上昇率…1.74%	左の上昇率を R13までとし、R14以降は 物価上昇率… 1.5% 賃金上昇率… 1.0% とする 
建設改良費	更新計画の実績に伴い、金額・算入年度を変更	・現在までの計画進行状況を踏まえて、約7億円分の工事を順延させる ・R9～19の基幹管路の工事を平準化する 
国庫補助金	計画当時の国庫補助金のメニューを元に、R10までの補助金額を収入に見込む（R6ビジョンより変更なし） 国庫補助金対策	現在の国庫補助金のメニューに基づき、R30までの補助金収入を見込む 

4 見直し項目【要精査】 料金改定により収支均衡

■ 資金確保の手段

	条件	←条件反映値
料金改定	・初回改定年度をR10年度とする ・改定年度から8年間は純損益がマイナスにならないように、改定年度の料金改定率を設定する（増減単位1%） （ただし500万円未満の損失が、8年中1回のみ出現する場合は見逃す） 恒常的な赤字では無く、また少額の単年度損失なら資金残高から補填可能	（精査中）
企業債発行	資金残高が概ね 10億円 を下回らないよう、当該年度の建設改良費に対する借入額の割合を設定する（増減単位5%）	（精査中）

5 その他の見直し条件（例）

● 更新工事の順延・・・国庫補助金の実績額平均や、職員人数に左右される業務量を考えると、単年度に10億円超など、多すぎる更新計画は現実味が薄い。少しずつ先送りになると見込んだ方が、より実際の収支に近づくのではないかな。

● 企業債借入時に確保すべき資金残高を低くする
・・・ビジョンでは給水収益1年分。今回見直しの「(3)料金改定により収支均衡を見込む」案では約10億円を掲げている。

他市町においても考え方は様々だが、低めの例では給水収益半年分で見込んでいるところもある。

・・・他、考慮すべき条件や、経費削減策は無いかな？？